

## 平泉文化の総合的研究基本計画（第4期）【概要】

岩手県・岩手県教育委員会

### 1 研究の経緯と内容

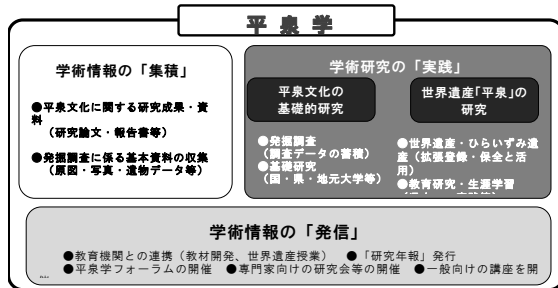
県では「平泉文化研究機関整備推進事業」に基づき、第1期（H12～21年度）、第2期（H22～R元年度）、第3期研究計画（R2～6年度）を通して継続的に研究を推進し、多くの成果を蓄積するとともに、毎年度、「平泉文化フォーラム」及び「平泉文化研究年報」により成果を公開してきたものである。

令和6年度で第3期計画の計画期間が終了することから、第4期計画を策定し、調査研究を継続するものである。

### 2 第4期研究計画の実施期間

5カ年（令和7（2025）年度～令和11（2029）年度）

#### 【研究フレーム】



### 3 研究テーマ

第4期研究計画における研究テーマは、第3期研究計画の成果と課題（別紙1）を踏まえ設定した。

テーマと実施項目	期待される成果・効果
柳之御所遺跡の考古学的研究	柳之御所遺跡の発掘調査成果の蓄積により、堀外部地区の様相が明らかになること及び堀内部地区も含めた周辺の実態が明らかになること。 【研究目的・目標】 ・堀外部地区の様相を把握し、今後の整備の材料として蓄積 ・堀外部地区の検討を行い、堀内部地区や他の遺跡との比較検討を実施 ・道路跡、区画の検討を実施（遺構の変遷、様相等の検討） 【研究の実施方法】 ・公益財団法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターとの発掘調査の実施 ・平泉遺跡群調査整備推進会議の指導に基づく発掘調査、遺構検討の実施
「平泉に係る考古学・歴史学的研究」	平泉における浄土思想の反映が詳細に検証され、12世紀平泉の実態が解明されること。 それによって「平泉」のOUVがさらに高められること。
考古学的遺跡群と浄土思想の研究	【研究目的・目標】 ・12世紀平泉の実態の解明 ・平泉出土資料の実証的研究 【研究の実施方法】 ・国等の外部研究機関研究者による、現地での滞在調査も含めた共同研究の実施

世界遺産に関わる比較研究	世界遺産に関わる多岐にわたる課題（価値の向上、保全管理、インタープリテーション等）について、年度ごとに課題を設定して課題解決への研究を行う。それによって平泉の価値の発信や活用、保全への具体的施策に取り組む。 【研究目的・目標】 ・世界遺産に係る諸課題の検討 ・平泉の世界遺産への課題解決へ向けた周辺事例も合わせた研究  【研究の実施方法】 ・国等の外部研究機関研究者による、現地滞在も含めた共同研究の実施
東・北アジアにおける政治拠点と平泉の比較研究	東・北アジアと平泉との関係について、より具体的様相が解明されること。それによって平泉の価値の拡大や拡張登録の実現へ向けた学術基盤の確立につなげる。 【研究目的・目標】 政治拠点について、追加すべき属性や地域について継続して研究を実施する。平泉の特質を明らかにし、世界遺産拡張登録にも貢献する。 ・東・北アジアにおける前近代の政治都市（拠点）の成立過程を検討し、12世紀における「平泉」との比較研究 ・政治と行政拠点としての「平泉」が、東・北アジアにおいて位置付けの追究 【研究の実施方法】 ・岩手大学との共同研究の実施 ・東・北アジア及び日本列島における前近代政治都市（拠点）の成立過程を調査 ・政治拠点「平泉」の成立過程の調査 ・「平泉」と他の政治都市（拠点）の比較に係る研究会・シンポジウム等の開催
世界遺産の教材化	学校教育や生涯学習・リカレント教育など世界遺産を活かした教育への取組実践を行い、教材作成や教育実践への還元を図る。 平泉の価値の発信を図る。 【研究目的・目標】 平泉学習モデルの実践について、継続して研究を実施。授業実践により、効果や活用方法を検討し、歴史教育や郷土教育、地域学習、生涯学習、リカレント教育等への発展も見据えた活用モデルの策定を目指す。 ・世界遺産教育の具体的な実践事例の収集 ・「平泉」における、効果的な世界遺産教育のあり方の検討と実践 ・世界遺産の保存管理に係る理解の深化、保存管理に係る幅広い世代への追求 【研究の実施方法】 ・岩手大学との共同研究の実施 ・世界遺産教育に係る課題の抽出、及び教育課程と世界遺産教育の関係整理 ・デジタル教材の更新・改訂 ・「平泉」教育に係るワークショップの実施と関係教材（デジタル教材）の活用実践と新たな授業モデルの構築
成果の公開	平泉学フォーラム等の開催や成果物の刊行を行い、研究成果の発信と周知を図る。

### 4 今後の方針

岩手県及び岩手県教育委員会が合同で研究を実施し、「平泉」の研究に多くの実績を持つ岩手大学や、国等の研究機関等との外部研究者連携を深化させ、平泉研究の成果を国際的に情報発信することを目指すものである。

別紙1 【第3期研究の成果と課題】

研究テーマ	○成果・●課題
①柳之御所遺跡の考古学的研究	○堀外部地区の調査成果が蓄積され、遺構検討が進展し、道路跡や建物跡の把握が進んだこと。 ○堀外部地区の整備基本設計が策定できたこと。 ●堀外部地区の時期変遷を把握するため既調査成果を踏まえた更なる検討やそれを踏まえた堀外部地区の性格等の位置付けが必要であること。
②平泉の彼岸と此岸の造形に係る比較研究	○仏教芸術、中国における彼岸此岸造形との比較研究により、平泉の特質が明らかとなったこと。 ●世界遺産としての平泉の価値づけをさらに具体化すること。
③出土文字資料の集成的研究	○平泉出土文資料の特徴が明らかとなったこと。 ●既資料の更なる釈読等が残されたこと。関連する資料の検討が必要となること。
④東・北アジアにおける政治拠点と平泉の比較研究	○各地の政治拠点との比較により、平泉の特質が明らかとなったこと。 ●未検討の属性を含めた政治拠点との比較検討により、平泉の特質を明らかにすること。
⑤学校教育における世界遺産の教材化についての研究	○教材のデジタル化と新たな学習モデルを行い、授業パッケージの策定と公開ができたこと。 ●作成した教材の学校等での実践や、幅広いターゲットへの遡求が求められること。

別紙2 【第4期研究の年次計画】

	R7	R8	R9	R10	R11
柳之御所遺跡の考古学的研究	柳之御所遺跡の発掘調査による調査成果の蓄積 堀外部地区の既往の調査成果を含めた検討による柳之御所遺跡全体の検討				
考古学的遺跡群と浄土思想の研究	外部研究者との共同研究の実施。 考古学、日本史などのほか、アジア史、建築史などの関連領域の研究者と年度ごとに研究テーマを設定して共同研究を行う。				
世界遺産に関わる比較研究	外部研究者との共同研究の実施。 世界遺産に関わる研究テーマを設定して共同研究を行う。				
東・北アジアにおける政治拠点の比較研究	・検討すべき事例の洗い出し ・現地調査 ・文献調査 ・ワークショップ等の開催	追加事例の調査検討 ・日本の政治拠点 ・ワークショップ等の開催	中間成果の取りまとめ ・ワークショップ等の開催 ・東アジアの政治拠点	平泉との比較研究 ・ワークショップ等の開催 ・北アジアの政治拠点	成果の取りまとめ シンボ等の開催開催等 ・平泉の成立、後代への影響
学校教育における世界遺産の教材化についての研究	改善点等の検討 活用事例の検討（教育課程での位置づけ） 世界遺産教育の意義づけ 教材の改訂	改善点等の検討 活用事例の検討（教育課程での位置づけ） 世界遺産教育の意義づけ 教材の改訂	授業実践による効果の研究（1） ・活用事例の拡大の検討	授業実践による効果の研究（2） 活用事例の拡大（授業・生涯学習等）	学習モデルの策定
成果の公表	平泉学フォーラムの開催による成果の公開 年報の刊行による成果の公開				
	フォーラムの開催 年報の刊行（26号）	フォーラムの開催 年報の刊行（27号）	フォーラムの開催 年報の刊行（28号）	フォーラムの開催 年報の刊行（29号）	フォーラムの開催 年報の刊行（30号）